

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム よりさんせ		
所在地	山口県光市三井6丁目18番1号		
電話番号	0833-77-0381	事業所番号	3571000318
法人名	医療法人 やよい		

訪問調査日	平成 20 年 9 月 24 日	評価確定日	平成 20 年 11 月 14 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人 非常勤 3 人 (常勤換算 8 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造		造り	
	1 階建ての	~	1 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	42,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無	
食費	朝食	400 円	昼食	450 円	
	夕食	450 円	おやつ	200 円	
その他の費用	月額	42,000 円			
	内訳	光熱水費 26,250円 日常生活費 15,750円			

(4) 利用者の概要 (9 月 24 日現在)

利用者数	9 名		男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1	3	要介護 4	1		
	要介護 2	3	要介護 5	1		
	要介護 3	1	要支援 2			
年齢	平均	85.6 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 河村循環器神経内科 歯科 儀本歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

運営者が医師で管理者が看護師であり、介護療養型医療施設や通所介護等も併設され、医療連携や緊急時の対応などが出来ており、利用者や家族、職員の安心へと繋がっています。職員は出来るだけ利用者の主体性を尊重し、見守りを中心とした待つ介護を心がけており、利用者同志が声を掛け合ったり、支え合いながら穏やかに暮らしています。

(特徴的な取組等)

ホーム独自の年間研修計画を作成し、毎月一回認知症への理解を深めるための研修やセンター方式の介護計画の研修等、職員全員が参加して行われています。ボランティアや家族の協力を得て、バスハイクや海水浴等に利用者全員で出かけ、バスハイクでは利用者のふるさと訪問も行ないます。年に2回程度、お茶会「よりさんせ会」を開催し、利用者の希望や願い、本音等を聞く場としています。法人内の施設間で相互訪問を行ない、利用者同士顔なじみの関係を作り、生活の広がりへ繋がっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

職員会議等で評価結果を話し合い、第三者委員の選任や地域向けホーム便りの発行等出来るところから取り組んでいます。

(今回の自己評価の取組状況)

事前に調査票を職員に配布して記入出来る所は記入してもらい、その後、職員会議で何回かに分けて話し合い、共通理解しながら仕上げ、運営者の記載項目については運営者自身が運営者の考え方を記載して作成しています。

(運営推進会議の取組状況)

利用者、家族、自治会長、地域住民代表、ラーメン屋さん、地域包括支援センター、管理者等が参加して行なっています。利用者の何気ない言葉からホーム前の道が「緑の道」として整備され、警察の協力も得て、車の乗り入れを少なくした散歩コースや広場、花壇が出来ました。

(家族との連携状況)

毎月ホーム便りを作成し、暮らしぶりや生活の様子を報告をしています。必要に応じ手紙や電話、面会時も報告を行い、家族との連携を深めるようにしています。家族は敬老会や海水浴、花見等にも参加され、交流を深めています。

(地域との連携状況)

地域版ホーム便りを作成し自治会回覧や店舗への配布を行ない、理解を深める取り組みをしています。自治会に加入し、草取り等の清掃活動や盆踊り、行事にも利用者や職員で参加しています。近くの産直市の買い物では、利用者が支払いを行なって関係者と交流し、見守りや支援を受けています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	今までの理念を職員全員で見直し、新たな理念を作ったが、地域密着型サービスとしての視点が盛り込まれていない。地域の中で地域と共に暮らしている様子は感じられる。	・地域密着型サービスとしての理念の見直し
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念と職員一人ひとりの目標を廊下の目につく所に掲げ、実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に入り、町内の清掃活動に利用者、職員ともに参加している。地域向けホーム便りを毎月作成して、自治会を通して各戸に回覧し店舗等にも配布している。地域の盆踊りやバスハイク時のボランティアさん、産直市での地域の人達との交流もある。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を深く理解しており、第三者委員の選任、地域向けホーム便りの作成など出来るところから取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	利用者、家族、自治会長、地域住民代表2名、ラーメン屋さん、地域包括支援センター、管理者等で開催している。会議の中からホーム前の道が「緑の道」として整備され、警察の協力も得て車の乗り入れを少なくした散歩コースと憩いの広場、花壇が出来た。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要に応じ行政と連絡を取り合い、指導や助言を得てサービスの向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月家族向けのホーム便りを作成し、暮らしぶりを知らせている。手紙や電話による報告も行ない、必要に応じ面会時にも報告をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情受付窓口が明示され第三者委員の選任も行なわれているが、苦情対応マニュアルが作られておらず、外部機関の明示も不十分である。	・苦情対応マニュアルの作成 ・外部機関の明示
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の急変や行事などに応じ職員を確保しており、話し合いによる職員間の調整も行なっている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者自身、異動や離職は最小限にしたいと考えており、そのためのレベルアップに取り組んでおり、異動等による影響についても配慮されている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の年間研修計画が作成され、認知症の理解や介護計画に係るセンター方式の学習など、職員全員が参加して毎月1回研修を行なっている。外部への研修参加も積極的に行なっている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営者は地域ケア会議等に出席して、関係者との意見交換や情報交換をしている。同業者の組織には加入していないため、交流は少ない。	・同業者との交流の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	職員が自宅や利用している施設へ出かけ本人や家族と顔なじみの関係をつくったり、本人に事業所に来てもらい、居室やホームを見学してもらうなど、安心して利用出来るよう配慮している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	食事の準備、片付け、買い物など日々の生活を共にする事により利用者から学んだり、喜怒哀楽を共にしながら支え合う関係を築いている。	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	本人の思いを大切に、希望や意向の把握に努めている。年に2回、お茶会「よりさんせ会」を開催し、さりげなく利用者の希望や願い要望を話してもらう場としている。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	毎月1~2回、午後6時30分から職員全員、運営者である医師等でケアカンファレンスを行い、いろいろな意見やアイデアを出した介護計画を作成している。必要や希望に応じ、本人や家族も参加している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	半年に1回の見直しとしているが、変化に応じて随時見直しをしている。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	病院の受診援助やバスハイク、海水浴、ふるさと訪問等、出かける場をつくり送迎や引率をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科は運営者である医師をかかりつけ医とすることを家族に了解してもらい、他は家族の希望病院への受診支援をしている。金曜日は受診日として病院へ行っているが、かかりつけ医は週2～3回はホームを訪れ、利用者の健康観察やなじみの関係を作っている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時、家族や本人に重度化した場合や終末期についての希望を聞いており、希望により終末期には家族、医師、職員と話し合い全員で方針を共有しながら看取りを行なっている。家族が居室に宿泊しながら、職員と共に看取りを行ったこともある。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応はない。記録や個人情報の管理も適切である。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の生活時間の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせて、希望に添いながら支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	何が食べたいか利用者の希望を聞いて献立をたて、近くの産直市へ一緒に買い物に行き、準備や配膳、片付けをしている。食材の買い物は楽しそうで、食事風景も職員共々同じ物を食べながら和やかである。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	週3回くらいの入浴を目安に、本人の希望やタイミングに合わせて個別対応をしており、入浴を楽しめるよう支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備、片付け、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、園芸など活躍できる場面づくりを支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くに産直市があり、毎日買い物に出かけている。施設前の「緑の道」には休憩所や花壇もあり、散歩や気分転換が出来る。夕方、気持ち落ち着かない様子が見られる時は、夕食後散歩に出かけたりしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	言葉や薬による拘束を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害を深く理解しており、居室や玄関の施錠はしていない。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、火災等を防ぐための知識を学び、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応を学んでいるが、定期的な訓練を行っていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	ホーム前の河川の増水により、避難指示を受け、併設診療所の2階に避難したことがあり、消防団の協力も得ながら夜間を想定した避難訓練をしている。運営推進会議で地域の協力が得られるよう働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個人のファイルに薬の作用、副作用についての書類を綴じており、職員は全員理解している。薬は手渡して服薬の確認をしている。症状の変化に応じて医師に相談している。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、口腔ケアを行なっている。歯ブラシ、義歯の清掃、消毒、保管等が支援されている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録している。水分は午前10時と午後3時に500mlのペットボトルを渡して水分確保に努めており、利用者同志も「お茶は飲むといいよ」と話し合っている。献立は併設施設の栄養士にチェックしてもらい、適宜、指導助言を得ている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症予防について併設施設での勉強会に参加し、知識を深めている。ホーム内には手指消毒器が設置しており、消毒を行なっている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂は日当たりが良く、窓から自然の風景が見え、季節感を感じることが出来る。居間には畳の部屋もあり、利用者が集いお話をしたり洗濯物を畳んだりお茶を楽しんだりしている。壁には様々な行事の写真が貼ってあり、利用者への話題提供にもなっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には大きめのクローゼットがあり、すっきり片付いた部屋となっている。テレビ、写真、絵手紙、花等も飾られ、その人らしく安心して過ごせるように配慮されている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム よりさんせ
所在地	山口県光市三井6丁目18番1号
電話番号	0833-77-0381
開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日

【サービスの特徴】

【実施ユニットの概要】 (月 日現在)

ユニットの名称					
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名		
	要介護 1	3	要介護 4	1	
	要介護 2	3	要介護 5	1	
	要介護 3	1	要支援 2		
年齢構成	平均 85,6 歳	最低 77 歳	最高 95 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	
評価確定日	平成 年 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>○運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	○	常に目に触れる場所に掲示し 意識啓発に努めている。
4	<p>○運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	○	認知症クリニックカンファレンスへの参加
5	<p>○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
6	<p>○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		
7	<p>○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
8	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>外部評価・自己評価の指摘をふまえて、可能な限りの改善を行った。</p>	○	<p>地域の住民としての地域の中でのホームでありたく、地域の人々の声に耳をしっかりと傾けたい。</p>
10	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p> <p>評価への取り組み状況について報告し意見を活かしている。</p>		
11	<p>○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>行政と連絡を取り合いサービスの質の向上に努めている。</p>		
12	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p> <p>必要な利用者には活用している。</p>		
13	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には ご利用者 ご家族がご理解納得されるまで十分な説明を行っている。</p>	○	<p>契約後にも理解ができていないかどうかの確認を行っている。</p>
15	<p>○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> <p>より広げたいとの関係により利用者様からの不満(お茶会)意見等望ましくお茶会と設けている。</p>		
16	<p>○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p> <p>向今時、手紙電話より広げたいにて定期的に報告を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p> <p>ご家族からの要望が、あるが、情報開示の要求に応じる。</p>		
18	<p>〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p> <p>昨年より第三者委員の選任を行い明示した。</p>		
19	<p>〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p> <p>職員の意見と聞き運営に反映させている</p>		
20	<p>〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p> <p>利用者様の急変時など必要に応じた職員と確保し人員調整を行っている</p>		
21	<p>〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> <p>職員の増減は最小限にしたい。そのようにしていると考えながら、グループの集団の力をアップさせて、利用者が安心できる体制を組む。</p>	〇	<p>職員が固定するだけでなく、個々の力をアップさせて、円滑な運営をしたい。</p>
5. 人材の育成と支援			
22	<p>〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>個々の能力の向上の為、職務に支障のない範囲で積極的に研修へ出席する。</p>	〇	<p>アマネージャー・介護福祉士の認定を取得し、基礎力の向上に努める。</p>
23	<p>〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p> <p>年代、職歴、資格、経験年数など、各種の資質をもった職員と配置している。</p>		
24	<p>〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域ケア会議などを通じて、介護各種サービス業者との交流を深める。</p>	〇	<p>業種間の訪問や見学などで交流を深める。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員旅行・バーベキュー大会などのメンタル・リフレッシュに力める。</p>	<p>〇 左記に当道、月直勤務以外の全員が参加できるようにする。</p>
26	<p>〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員個々のモチベーションを向上させる為、適宜、勤務状況の把握に力める。</p>	<p>〇 個々の能力の向上を直接的に判定できるよう努力する。</p>
27	<p>〇職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>	<p>スタッフと相談、検討を繰り返す。その評価も行っている。</p>	<p>〇 給与などの詳細な待遇改善で運営可能な範囲内で行っている。</p>
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
28	<p>〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>ご利用前 ご自宅に伺ったり 施設に伺ったり ご本人の思いをしっかりと聴くようにしている。</p>	
29	<p>〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>遠方のご家族には、電話 手紙などで 思いを伝えることを聴いている。</p>	<p>〇 今後もしも入居直後に何かあっても、ご家族の思いを寄り添いしっかりと受けとめたい。</p>
30	<p>〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ケアマネージャーも同行し何が必要かを と検討し対応している。</p>	
31	<p>〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>ご利用前 職員がご自宅や施設に伺ったり ご本人に丁寧な声かけなどをしていただく 馴染んでいただくようにしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
32	<p>〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>ご利用者と向きあう姿勢を忘れず何ができて 何ができていないかをしっかりと把握した上で 支えあう関係に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33 <u>〇本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と何でも話し合える関係を作り ご家族と一緒にご利用者と支えていく。		
34 <u>〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。			
35 <u>〇馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能な限りふるさと専門やこれまでに いかけていた美容院へみ連れをするとしている。		
36 <u>〇利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者同志のトラブルも職員が関わり入ること なくご利用者で解決できている。		
37 <u>〇関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後もみ付き合える機会に契約終了 のサポートを継続することもあるため、今後も 関係は維持していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 <u>〇思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いと大切に ご本人と 何らかう 取り組んでいる。		
39 <u>〇これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人 ご家族よりしっかりと聞き取れているが 入居後は新居に早くともみつきあう 情報は 関係は維持し続けていく。		
40 <u>〇暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の能力を総合的に把握できるように している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族に ケアカンファレンスに参加していただいたり ご家族と話し合い、から ケア計画を作成している。	
42	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	変更に応じて話し合いをし 計画を変更している。	
43	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に 記入し 職員全員で 情報と共有し ケアにつなげている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設施設 (病院) での 健康診断 回診など 健康管理に 対応している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて ボランティア 導引し 協力を得て 対応している。	
46	〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している (認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の学校の 研修など、ご本人 ご家族の ご理解と得て 受け入れしている。	
47	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	実施していない。	<input type="checkbox"/> ご本人 ご家族の 希望が あれば 対応と行、ていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	〇	ご本人の意向や必要性に応じて取り組んでいきたい。
49	<p>〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		ご本人 ご家族の希望される医師が受けられるよう支援している。
50	<p>〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		取用は相談に行ったり 専門医師が受けられるよう支援している。
51	<p>〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		外来 病棟 看護師とも連携をとりながら支援している。
52	<p>〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		ご家族を通して 情報交換を行っている。
53	<p>〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		入居時にも 終末期のあり方について話し合いを持ち、その時点で再度話し合い 全員で方針を共有している。
54	<p>〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		チームでの支援に取組んでいる。
55	<p>〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		住み替えによるダメージを防ぐために 情報交換、話し合いを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56	〇 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	今の場所、今の場所、常に考え、誇りやプライバシーを損ねるような対応はしてない。	〇 対応は行った時は又のふり返りを 行い、今後の今更につけていく。
57	〇 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	どうしたら思いが表わされるか、常に声かけたり、ことばを選んで説明をしている。	
58	〇 “できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	個々の能力と大切に支援している。	
59	〇 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	ご利用者一人ひとりのペースと大切に、その人に合ったペースと支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人の希望される美容院へお連れしている。	
61	〇 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みのメニューを多くとし、献立を直して職員と一緒に 食事をし、片付けをしていっている。	
62	〇 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しむよう支援している。	お酒、おやつ等、楽しみにしている。ご自由に と、いっている。	
63	〇 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の失敗を把握し、トイレの準備などにより 排泄の失敗も減少してきた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	あーんあひとり 個別に対応し、くっさいで × 浴して いただいている。	
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	十分な睡眠がとれさう 日中の活動量の調整と 行ったり 居室の温度 湿度の調整を行っている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	倉庫の方付け 掃除 洗たくし 洗たくもため 園芸など 活躍できる 場面づくりをすすめている。	
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	あーんあひとりの力量に応じて支援している。	
68	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩 買い物など 日々の状態 に希望により 外出している。	
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご利用者の思いをきき 個別に対応している。	
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話 手紙のやり取りができるよう支援している。	
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間には 特に定めておらず いつでも 訪問 していただくようにしている。	
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	ご家族の希望があれば 対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	<p>〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
74	<p>〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		利用者の危険性がな、限り常にオープンにする。
75	<p>〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		常に利用者本位に考えながらその危険性を理解すること。
76	<p>〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p>〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78	<p>〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79	<p>〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	○	定期的に実施している。
80	<p>〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	<u>〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
91	<u>〇居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		適宜採光を行い、照明の使い方をし、不快にならないよう配慮している。
92	<u>〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		一人ひとりの思い思いに過ごせるよう配慮している。
93	<u>〇居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		ご本人ご家族と相談し使い慣れたものと持参してもらっている。
94	<u>〇換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		早朝の涼しい時間帯は、窓の扉を開け採光を行い、室温は、夏冬は外気温差5℃以内としている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<u>〇身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。		バリアフリーとし、手すりの設置により、安全に生活を送れるようにしている。
96	<u>〇わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		誤りや生じた場合、なぜ混乱が起きたのか理由と明確にし、今後のケアにつなげていく。
97	<u>〇建物の外周や空間の活用</u> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		玄関前の花壇は、ご利用者さん達だけで作りあげ管理されている。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない